

16
7-17
聖徒伝 42

「回帰不能点」

民数記11～14章

カデシュ・バルネア事件

民数記②

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 反抗の民 11章

II. ミリアムとアロンの反抗 12章

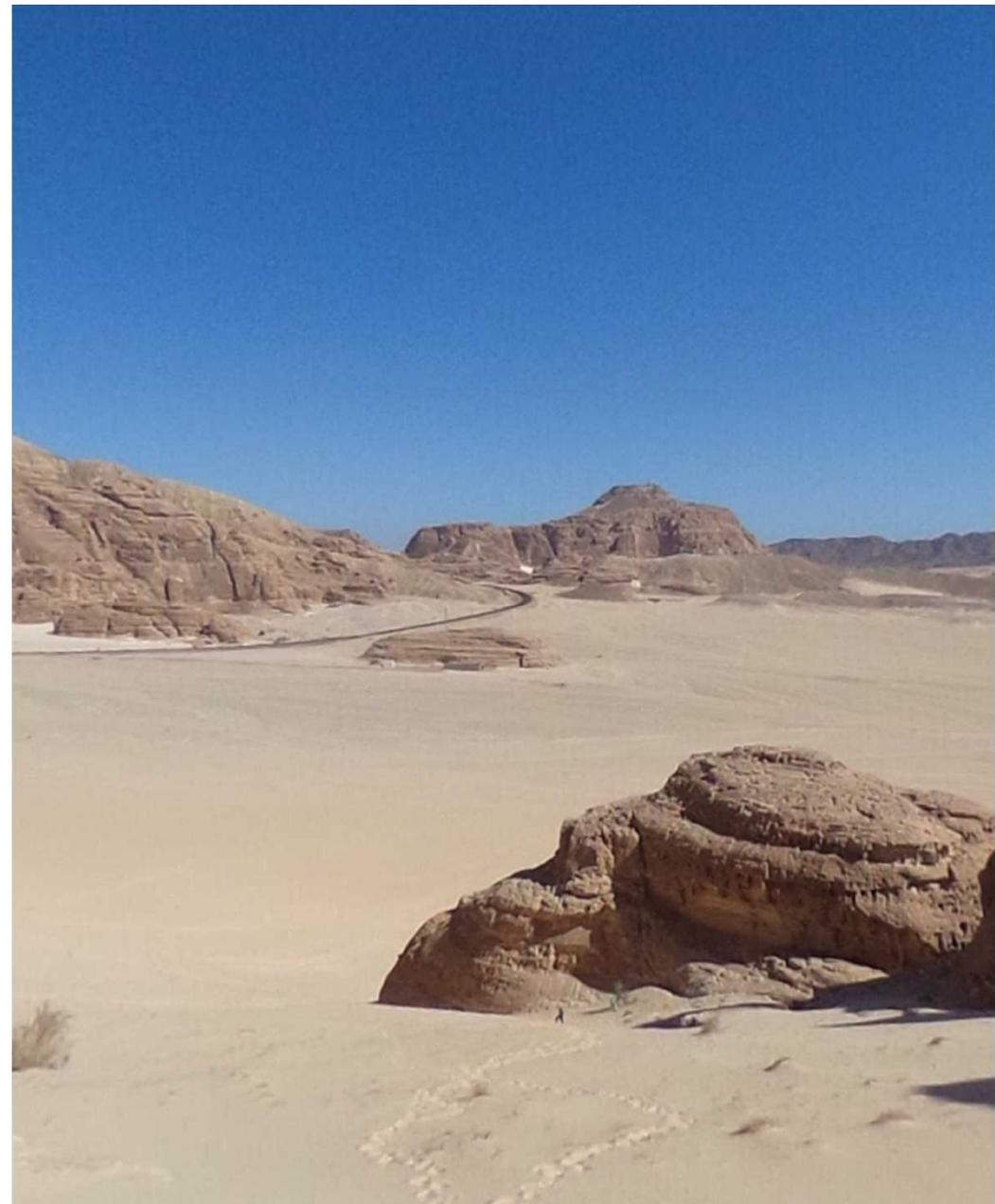
III. カデシュ・バルネア 13~14章

カナン偵察 反抗と裁き

IV. まとめと適用

逃れられない罪の刈り取り

失われない救いの原則



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

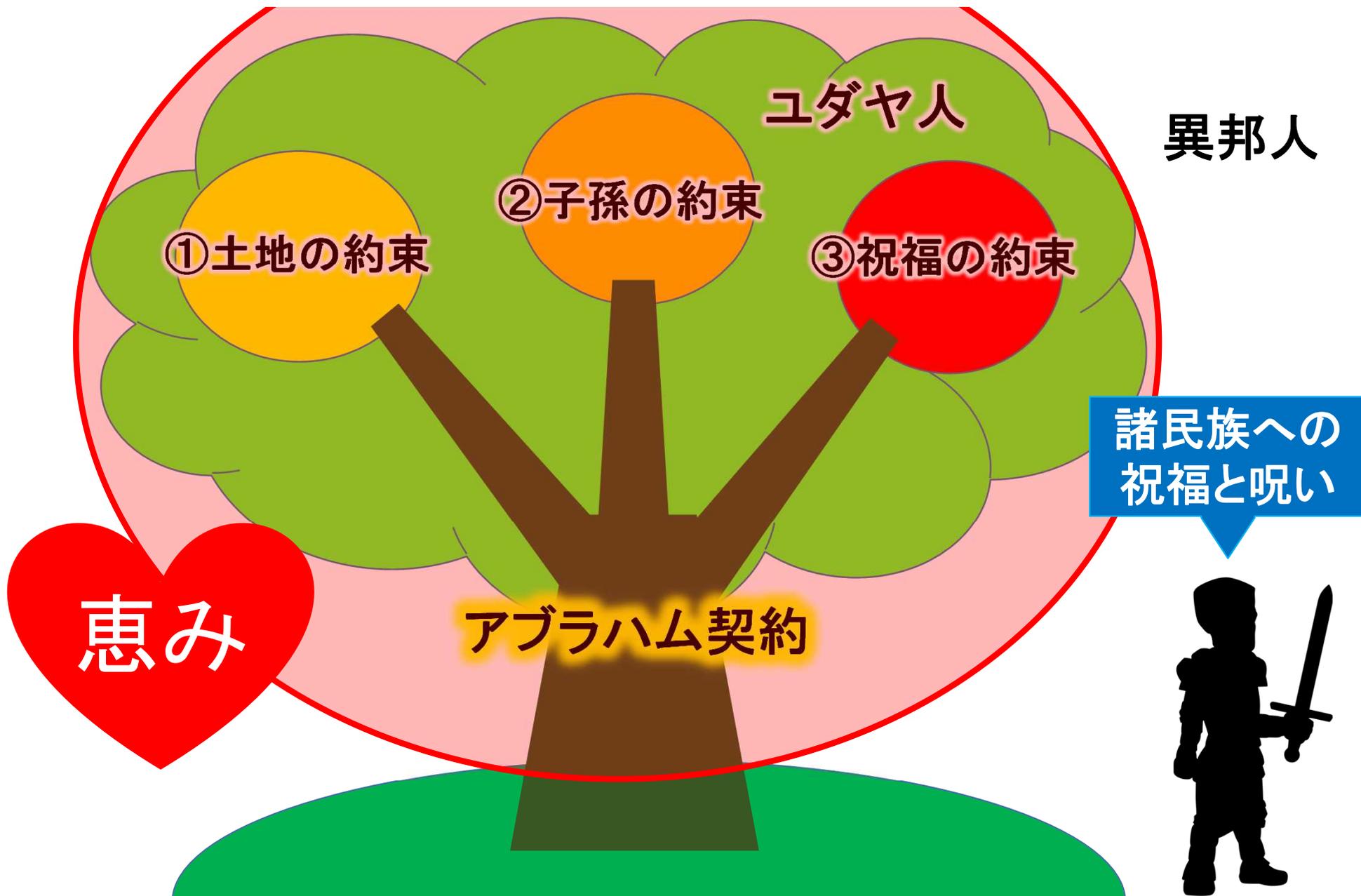
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

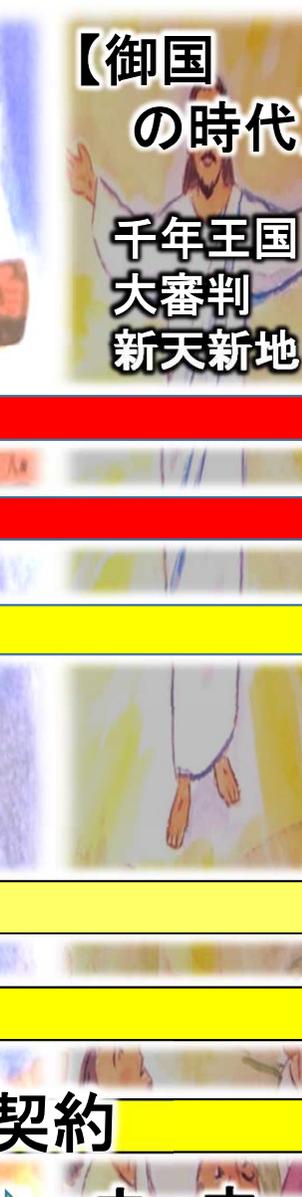
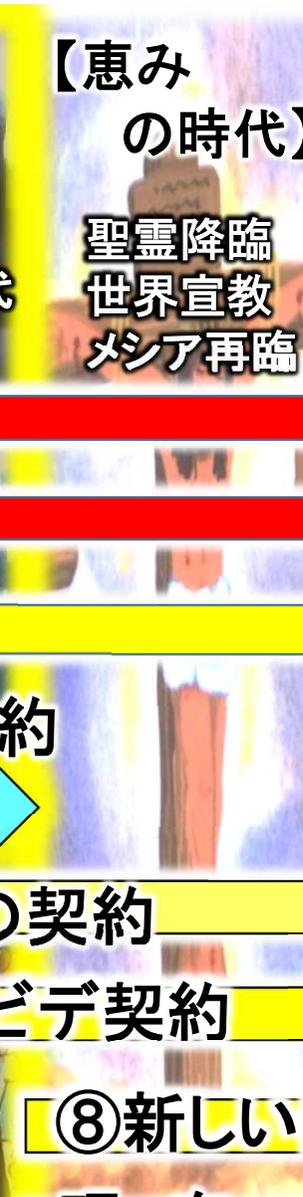
※しるし ...割礼

律法の土台にも、
アブラハム契約がある!!



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

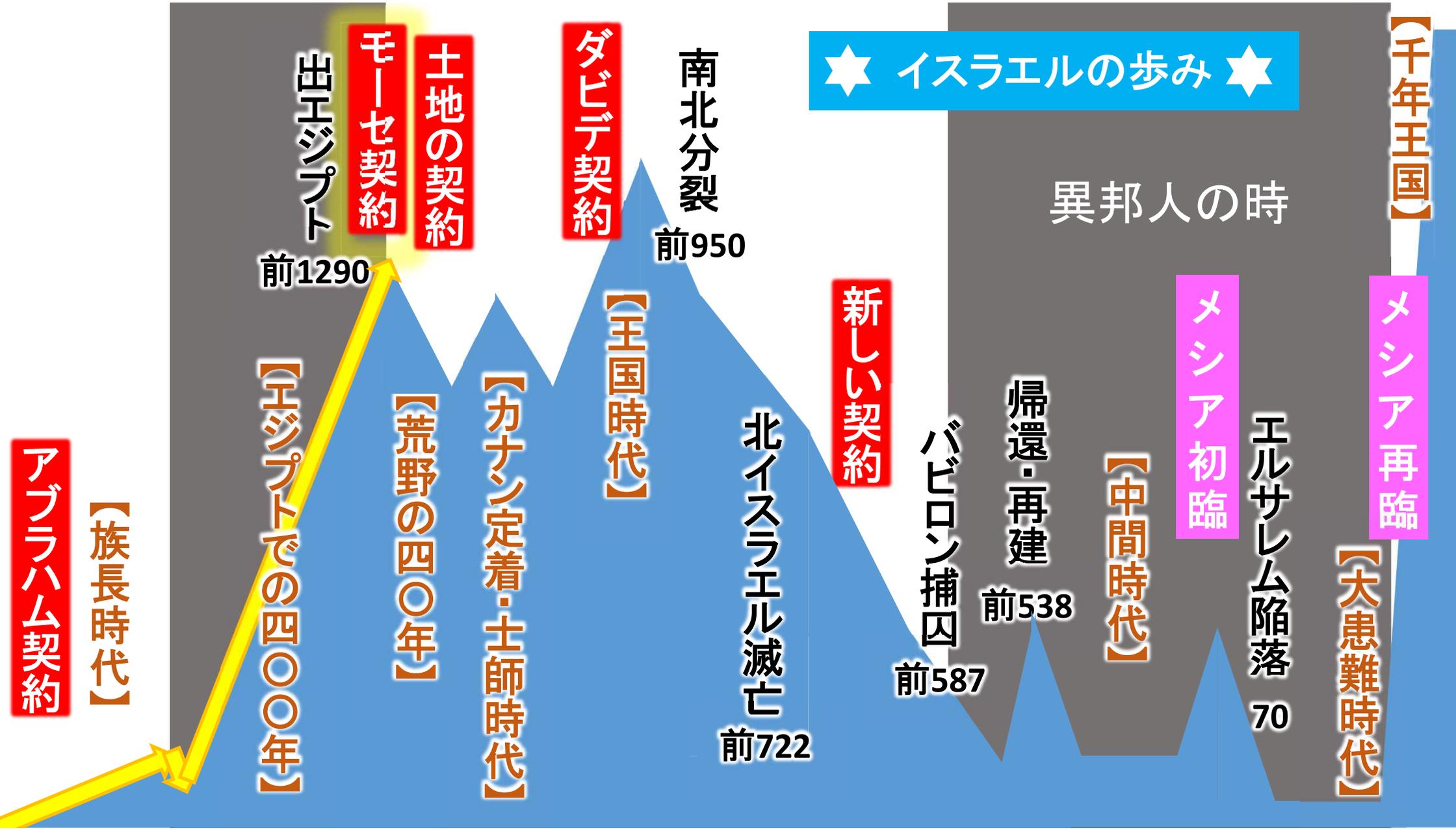
- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。



律法は、条件付き契約

従えば、祝福。破れば、呪い

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂
前950

出エジプト
前1290

【イスラエルの荒野の歩み】

■エジプト → シナイ山まで

3ヶ月

■シナイ山での律法授与

3ヶ月

- ① 一度目 40日間
- ② 金の子牛事件
- ③ 二度目 40日間

■幕屋建設

6ヶ月

(律法の学び?!)

■点呼・出発 実践的訓練!!

1ヶ月後



【イスラエル全部族の隊列】

北 ↑ 157,600人



ゲルシヨン



アロン
モーセ



東 → 186,400人

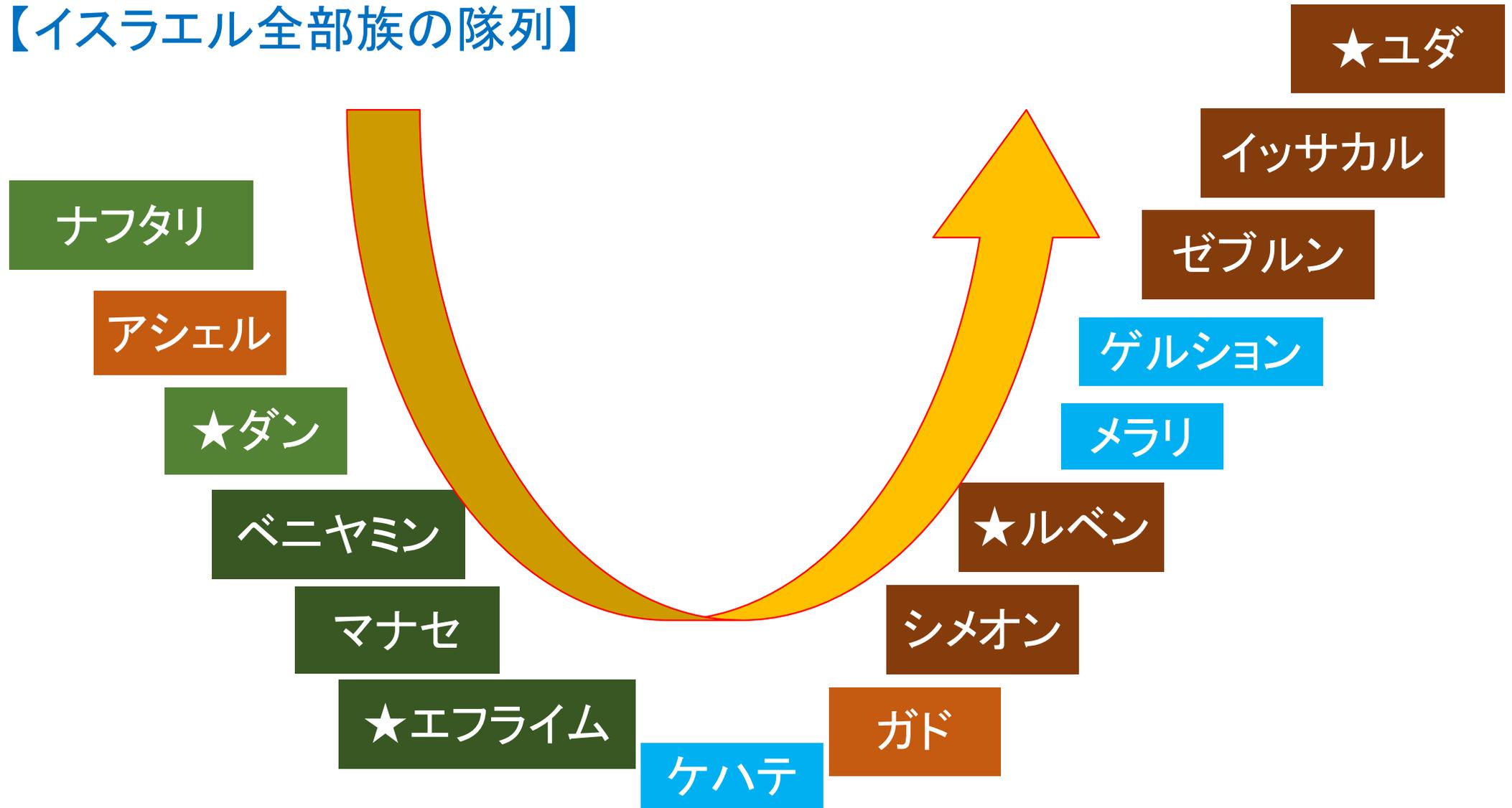
108,100人



南 ↓ 151,450人

- レアの子
- レア(ジルパ)の子
- ラケルの子
- ラケル(ビルハ)の子

【イスラエル全部族の隊列】



I. 反抗の民

民数記11章



【最初のつぶやき】 民数記11:1～3

さて、民は【主】に対して、繰り返し激しく不平を言った。
【主】はこれを聞いて怒りを燃やし、【主】の火が彼らに向
かって燃え上がり、宿営の端をなめ尽くした。
すると民はモーセに向かってわめき叫んだ。それで、
モーセが【主】に祈ると、その火は消えた。
その場所の名はタブエラ(燃え上がらせた)と呼ばれた。
【主】の火が、彼らに向かって燃え上がったからである。

- 民を導いてきた栄光の火が、民に燃え上がった。
- 不平を言う民に、神の怒りが燃え上がり、
悔い改めた民を、モーセが取りなし、裁きが止む。
➔ 延々と繰り返されていった末に...!!



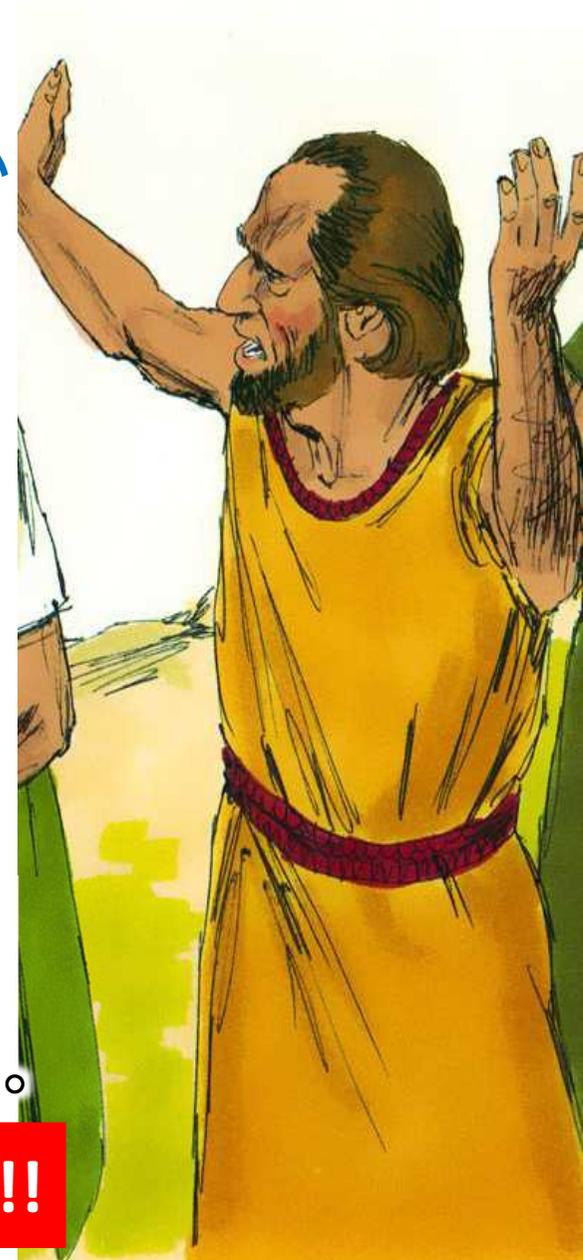
【止まない、つぶやき】 民数記11:4～9

彼らのうちに混じって来ていた者たちは激しい欲望にかられ、イスラエルの子らは再び大声で泣いて、言った。「ああ、肉が食べたい。エジプトで、ただで魚を食べていたことを思い出す。きゅうりも、すいか、にら、玉ねぎ、にんにくも。だが今や、私たちの喉はからからだ。全く何もなく、ただ、このマナを見るだけだ。」

* エジプトにいた異邦人の奴隷たち(出12:38)

■ 奴隷時代が美化され、神の救いの御業は貶められ、日々、民を養った天からのパンの価値すら拒絶された。

おどろくべき神の恵みすら拒絶する、人の罪の本質!!



【モーセの嘆き】民11:10～15

■ 民は、これみよがしに、「自分の天幕の入り口で泣いた」。神の怒りは燃え上がり、モーセは嘆き、訴えた。

■ 荒野のただ中で、「肉が食べたい」と、欲望のままに泣き叫ぶ赤子のような民を導くのは、自分には荷が重すぎる。モーセの嘆きは、絶望に変わった。

「11:15 私をこのように扱われるのなら、お願いです、どうか私を殺してください。これ以上、私を悲惨な目にあわせないでください。」

■ 金の子牛事件では、永遠の救いと引き換えにしても、イスラエルの赦しを願ったモーセだったが...(出32:32)



【神のこたえ】 民数記11:16

- ① 70人の長老に聖霊が降り、モーセの負担が軽減される。
- ② 民に、肉が与えられる。
- ③ 肉は一ヶ月与えられ続け、最後は、吐き気をもよおす。
➔ 恵みを拒み続けた者には、恵みすら裁きとなる!!

■ どうやって、この民、一ヶ月も肉を食べさせられるのか？

食い下がるモーセに、主は言い渡された。

「この【主】の手が短いというのか。」

わたしのことばが実現するかどうかは、今に分かる。」

神の言葉を信頼する。それが私たちの信仰の根幹。



【70人の長老に降った神の霊(聖霊)】 民数記11:24～30

■ モーセが主に従い、70人の長老を集めると、聖霊が降り、預言した。以来、彼らは、民を治める働きを、聖霊の助けを得て、モーセと共に担うこととなった。

■ 集えなかった二人の長老は、宿営で聖霊を受けた。

■ やめさせようとしたヨシュアに、モーセは言った。

11:29「あなたは私のためを思って、ねたみを起こしているのか。【主】の民がみな、預言者となり、【主】が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。」

➡モーセの切なる願いは、約1,500年後に、叶えられた。

ペンテコステに、イエスの弟子たちに、聖霊が降った



この時代の
聖霊の働きは、
限られた人に、
限られた期間!!

【うずらの大群】 民数記11:31～32

さて、【主】のもとから風が吹き、海からうずらを運んで来て、宿営の近くに落としました。それは宿営の周り、どちらの側にも約一日の道のりの範囲で、地面から約二キュビトの高さになった。

- 野生のうずらは、渡り鳥。(アフリカ➡アジアへ)
低空を飛ぶため、捕まえやすく、何百万羽も捕らえられていたことも。➡現在は激減。ほとんど飼育。
- 宿営の周囲30kmに渡り、1mの低空で飛び交った。
民は夢中でとらえ、捕らえた量は、2300リットルにも
➡ 一人一山!!



【神の裁き】 民数記11:33～35

肉が彼らの歯の間であって、まだかみ終わらないうちに、【主】の怒りが民に向かって燃え上がり、【主】は非常に激しい疫病*で民を打たれた。

その場所の名はキブロテ・ハ・タアワ*と呼ばれた。欲望にかられた民が、そこに埋められたからである。キブロテ・ハ・タアワから、民はハツェロテに進んで行った。そしてハツェロテにとどまった。

* 疫病 ➡ 鳥インフルエンザ、とか？

* キブロテ・ハ・タアワ ➡ “欲望の墓” という意味!!



人間を破滅させるのは、
人間の欲望

Ⅱ. ミリアムとアロンの反抗

民数記12章



【ミリアムとアロンの反抗】 民数記12:1

そのとき、ミリアムとアロンは、モーセが妻としていたクシュ人の女のことで彼を非難した。

モーセがクシュ人*の女を妻としていたからである。

* クシュ人 ➡ ハム系。居住地は、現在のエチオピア。
モーセの妻チツポラは、ミディアン人。
アブラハムの子孫。

■ チツポラは、クシュ人との混血だった？

■ ここでの「クシュ人」は、チツポラに対する蔑称？

➡ ミリアムとアロンの民族的差別意識の表れ？



【ミリアムとアロンの本音】 民数記12:2～3

彼らは言った。「【主】はただモーセとだけ話されたのか。われわれとも話されたのではないか。」

【主】はこれを聞かれた。モーセという人は、地の上のだれにもまさって柔和*であった。

* **柔和** ...アナブ。 謙遜、貧しい、とも訳される。

■ ここでは、“アナブでアナブ” 二度繰り返す!!

➡モーセは、“誰より柔和で謙遜だった”

マタ 5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。」

マタ 11:29 「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。(新共同訳)」



真実に謙遜な方は？

人となられた子なる神
イエス・キリスト

【主の叱責】 民数記12:4～9

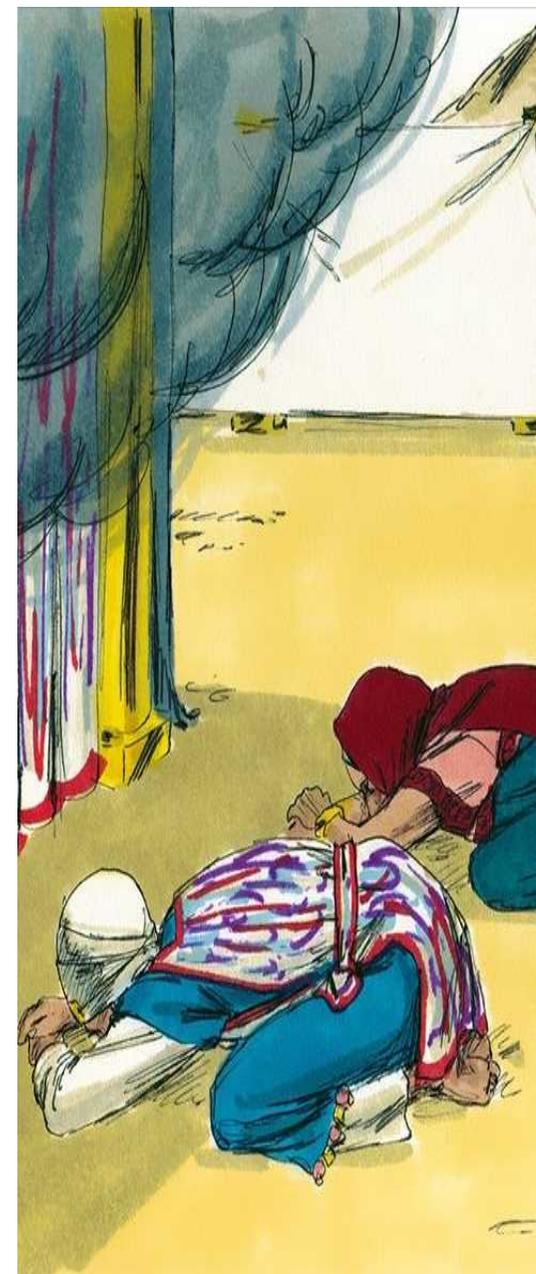
■ 主は、モーセとアロンとミリアムを幕屋に呼び出した。

「聞け、わたしのことばを。もし、あなたがたの間に預言者がいるなら、【主】であるわたしは、幻の中でその人にわたし自身を知らせ、夢の中でその人と語る。

だがわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者。彼とは、わたしは口と口で語り、明らかに語って、謎では話さない。彼は【主】の姿を仰ぎ見ている。なぜあなたがたは、わたしのしもべ、モーセを恐れず、非難するのか。」

* この時代、モーセだけに与えられた特権。

今の教会時代には、すべての信者の特権に!!



【ミリアムとアロンへの神の裁き】 民数記12:10～

■ 神に裁かれ、ミリアムの肌はツアラアト(重い皮膚病)に!!

➡アロンは、大祭司の役目のために、免れたのだろう。

■ 悔い改めたアロンは、モーセにとりなしを願い、祈った。
「わが主よ。どうか、私たちが愚かにも陥ってしまった罪の罰を、私たちに負わせないでください。どうか、彼女を、肉が半ば腐って母の胎から出て来る死人のようにしないでください。」

■ ミリアムは癒やされたが、7日間、宿営の外に置かれた。民も、ミリアムが戻るまで待たされた。ミリアムの罪は、イスラエルの民の罪でもあったのだろう。



Ⅲ. カデシュ・バルネア

カナン偵察・反抗と裁き

民数記13～14章



【偵察隊の派遣】 民数記13:1～16

【主】はモーセに告げられた。

「人々を遣わして、わたしがイスラエルの子らに与えようとしているカナンを偵察させよ。父祖の部族ごとに一人ずつ、族長を遣わさなければならない。」

モーセは、【主】の命により、パランの荒野から彼らを遣わした。

- 12人の中に、カレブ(ユダ族)と、モーセの従者ホセア(エフライム族)がいた。
- ヌンの子ホセア(彼は救い出す)は、ヨシュア(主は救い)と、改名された。



【偵察隊への命令】 民数記13:17～20

- ① 約束の地を南から北まで、すべて探ること!!
- ② その地の民の力、人口は？
- ③ 土地は、よい地か？
- ④ その地の町々の守りはどうか？
- ⑤ その地の作物を、証拠として持って帰ること!!

「その季節は初ぶどうの熟すころであった。」

- 4～10月までの乾期が終わり、雨期が始まる前。
イスラエルの暦だと、仮庵の祭りの前の頃。
ぶどうは、夜露によって潤され、甘みを増していく。



【偵察隊の成果】 民数記13:21～25

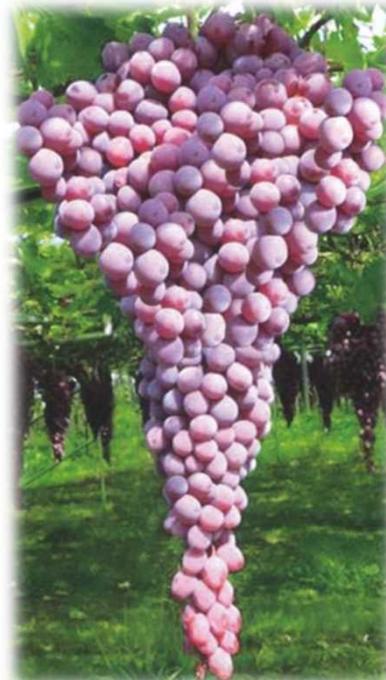
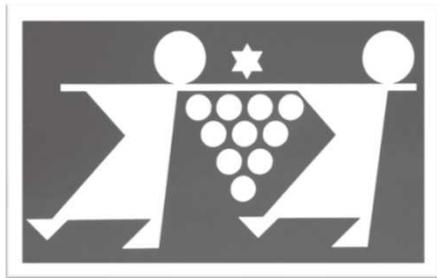
■ 偵察隊は、山地を通過して南北を縦断した。

■ 40日は、聖書では、試みを示す数字。

➡ モーセのシナイ山。イエスの荒野の試練。

「彼らはエシュコルの谷まで来て、
ぶどうが一房ついた枝を切り取り、
二人で棒で担いだ。」

➡ 約束の土地の豊かさを示すもの!!



【偵察隊の二つの報告】 民数記13:26～33

①吉報 ...「そこには確かに乳と蜜が流れています」

持ち帰ったブドウや、様々な豊かな産物を見せた。

②凶報 ...「攻め上れない。あの民は私たちより強い」

町々の城壁は堅固で、強い民が、多く住んでいた。

■攻め上ろうと主張したのは、カレブとヨシュアだけ。

偵察隊は、民を扇動し、恐怖を煽った。

「13:33 私たちは、そこでネフィリム*を、ネフィリムの末裔アナク人を見た。私たちの目には自分たちがバッタのように見えたし、彼らの目にもそう見えただろう。」

* 大洪水前にいた、悪霊と人間の混血。伝説の存在。



【恐れ、爆発する民の不満】 民数記14:1～5

すると、全会衆は大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。イスラエルの子らはみな、モーセとアロンに不平を言った。全会衆は彼らに言った。「われわれはエジプトの地で死んでいたらよかった。あるいは、この荒野で死んでいたらよかったのだ。

なぜ【主】は、われわれをこの地に導いて来て、剣に倒れるようにされるのか。妻や子どもは、かすめ奪われてしまう。エジプトに帰るほうが、われわれにとって良くはないか。」そして互いに言った。

「さあ、われわれは、かしらを一人立ててエジプトに帰ろう。」



■ ついに、神が立てた指導者モーセを引きずり下ろそうとする民。

モーセとアロンは、主の前にひざまずき、必死のとりなしを始めた。

【カレブとヨシュアの必死の訴え】 民14:6～10
「私たちが巡り歩いて偵察した地は、すばらしく、
良い地だった。

もし【主】が私たちが喜んでおられるなら、私たち
をあの地に導き入れ、それを私たちに下さる。
あの地は乳と蜜が流れる地だ。

ただ、【主】に背いてはならない。その地の人々を
恐れてはならない。彼らは私たちの餌食となる。
彼らの守りは、すでに彼らから取り去られている。
【主】が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れ
てはならない。」

しかし全会衆は、二人を石で打ち殺そうと言い出
した。すると、【主】の栄光が会見の天幕からすべ
てのイスラエルの子らに現れた。



【モーセのとりなし】 民数記14:11～19

■ 主は、民を打ち、モーセから新たな民を起こすと告げた。

■ モーセは、主の名誉と、主の憐れみに訴えた。

もし、あなたがこの民を一人残らず殺すなら、あなたのうわさを聞いた異邦の民は、このように言うに違いありません。『【主】はこの民を、彼らに誓った地に導き入れることができなかつたので、荒野で殺したのだ』と。

どうか今、あなたが語られたように、わが主の大きな力を現してください。あなたは言われました。

『【主】は怒るのに遅く、恵み豊かであり、咎と背きを赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰し、父の咎を子に報い、三代、四代に及ぼす』と。

この民をエジプトから今に至るまで耐え忍んでくださったように、どうかこの民の咎をあなたの大きな恵みによって赦してください。」



【裁きの宣告】 民数記14:20～25

【主】は言われた。

「あなたのことばどおりに、わたしは赦す。

しかし、わたしが生きていて、【主】の栄光が全地に満ちている以上、わたしの栄光と、わたしがエジプトとこの荒野で行ったしるしとを見ながら、十度もこのようにわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかった者たちは、だれ一人、わたしが彼らの父祖たちに誓った地を見ることはない。わたしを侮った者たちは、だれ一人、それを見ることはない。

ただし、わたしのしもべカレブは、ほかの者とは違った霊を持ち、わたしに従い通したので、わたしは、彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。」



【裁きの内容】 民数記14:26～32

【主】はモーセとアロンに告げられた。「いつまで、この悪い会衆は、わたしに不平を言い続けるのか。わたしは、イスラエルの子らがわたしにつぶやく不平を聞いた。

彼らに言え。わたしは生きている—【主】のことば—。わたしは必ず、おまえたちがわたしの耳に語ったとおりに、おまえたちに行く。この荒野におまえたちは、屍をさらす。わたしに不平を言った者で、二十歳以上の、登録され数えられた者たち全員である。エフネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアのほかは、おまえたちを住まわせるとわたしが誓った地に、だれ一人入ることはできない。

おまえたちが『かすめ奪われてしまう』と言った、おまえたちの子どもについては、わたしは彼らを導き入れる。彼らはおまえたちが拒んだ地を知るようになる。

しかし、おまえたちはこの荒野に屍をさらす。



【裁きの内容】 民数記14:33～38

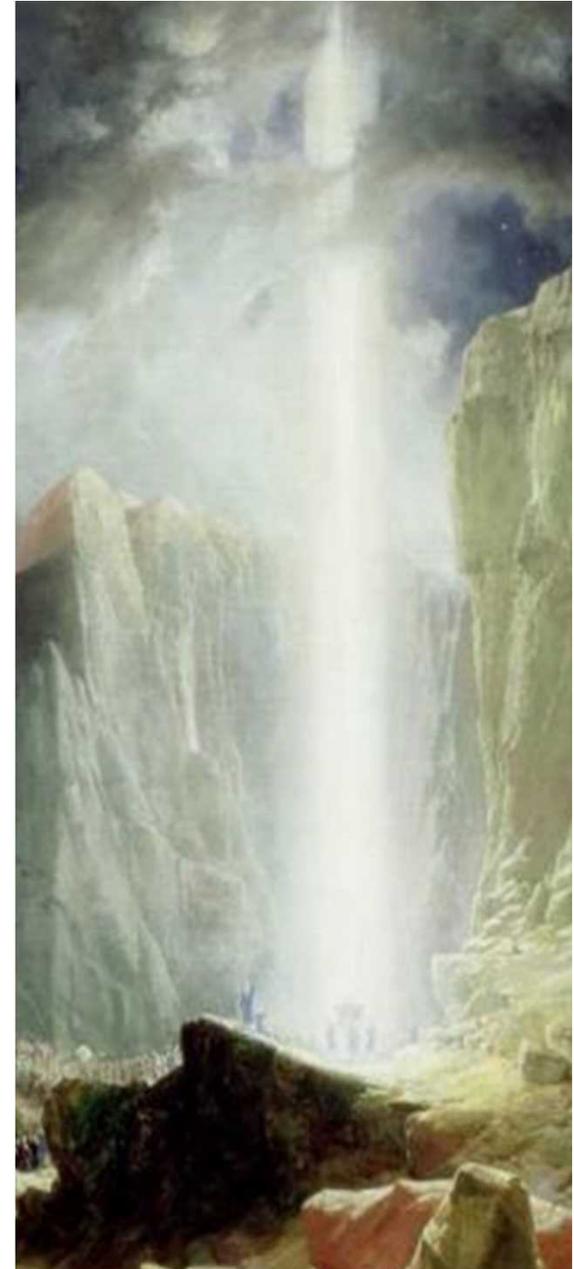
羊を飼う者となり、おまえたちがみな、屍となるまで、おまえたちの背信の責めを負わなければならない。

おまえたちが、あの地を偵察した日数は四十日であった。その一日を一年と数えて、四十年の間おまえたちは自分の咎を負わなければならない。こうして、わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。

【主】であるこのわたしが言う。一つになってわたしに逆らったこの悪い会衆のすべてに対して、わたしは必ずこうする。この荒野で彼らは死に絶える。

また、モーセがあの地の偵察のために遣わした者で、帰って来て、その地について悪く言いふらし、全会衆にモーセに対する不平を言わせた者たちもだ。」

こうして、その地を悪く言いふらした者たちは、【主】の前に疫病で死んだ。しかし、あの地を偵察しに行った者のうち、ヌンの子ヨシュアと、エフンネの子カレブは生き残った。



【悔い改めなき民の姿】 民数記14:40~45

- 裁きの宣言の翌日、約束の地に上ろうとする者たちが。
「われわれはここにいるが、とにかく【主】が言われた場所へ上って行ってみよう。われわれは罪を犯してしまったのだ。」
➡ 悔い改めなく、ただ、開き直るだけの民の姿。
主に従うにも、時がある!!
- しかし、神は、もはや、民と共におられない。
➡ モーセが止めたにも関わらず、上った彼らは、
山地にいたアマレク人とカナン人に討たれてしまった。



IV. まとめと適用

逃れられない罪の刈り取り 失われたい救いの原則



【繰り返された罪の末に、回帰不能点を超えたイスラエル】

■ 学びを終え、旅だったイスラエルは、すぐに罪に陥った。

■ 自らの欲望に飲み込まれ、指導者への嫉妬に駆られ、
眼前の恐怖に簡単に飲み込まれ、激しく神に反抗した。

■ 出エジプト以来、反抗を繰り返しては赦され、日々の糧を与えられ、
律法を教えられ、神の栄光が共におられたにも関わらず。

■ ついに神の裁きはくだり、約束の地を踏みしめることは不可能に!!
モーセの必死のとりなしのゆえ、民族の滅亡はまぬがれ、
約束は、子孫に引き継がれた。

■ 神の憐れみにも時がある。恵みの時に、受け取らなければならない。

【それでも残された希望の道】

- カレブとヨシュアは、約束の地へ入ることをゆるされた。
カレブは、主を信じて救われる、すべての信者の型・影。
- “主は救い”という名のヨシュアは、キリスト・イエスと同じ名。
➔ヨシュアは、キリストを信じて救われる、唯一の道を示す影。
- モーセの切なる願いは、ペンテコステに実現された。
➔今や、主イエスの十字架と復活の福音を信じたすべての者に、
神の霊なる聖霊が住まわれている。
- 信仰者は、主イエスの福音によって救われて、
聖霊によって導かれ、成長させられていく!!

【回帰不能点を超えてしまう、その前に!!】

ヨハ 4:35 あなたがたは、『まだ四か月あって、それから刈り入れだ』と言ってはいませんか。しかし、あなたがたに言います。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。

■ イスラエルは、刈り入れを目前にして、それを拒んでしまった。

■ 今は恵みの時、救いの時。生きて、恵みが与えられている今に、主イエスの十字架の贖いと復活の救いの福音を信じよう。

■ 一度与えられた救いは、主の約束のゆえに、失われることはない。一方で、信仰者にも、自ら蒔いた種の刈り取りはある。

■ 回帰不能点を超えてしまうその前に、今、悔い改めて立ち返ろう!!
今、伝えるべきことを、伝えていこう!! 今日から、遣わされよう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主の恵(めぐ)みは、わたしに十分(じゅうぶん)です。刈(かり)取(と)りのときは迫(せま)っています。

どうか、今、この場所(ばしょ)から、わたしを遣(つか)わしてください。

共(とも)におられる主(しゅ)に信頼(しんらい)します。御霊(みたま)によって導(みちび)いてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」